

# OCEAN BLUE JAZZ FESTIVAL 2000 in HITACHINAKA

今年も8月26～27の両日、国営ひたち海浜公園において内外の素晴らしいジャズ演奏家が集ってコンサートがひらかれます。「オーシャン・ブルー・ジャズ・フェスティバル 2000 in ひたちなか」と名づけられたこのジャズの祭典は1997年に始まり、今年が3回目になります。美しい国営ひたち海浜公園の水のステージで繰り広げられる熱演は、本市や茨城県はもとより、日本中のジャズファンの夏の楽しみの一つになってきました。

さて、ジャズとはいったい何なのでしょう？ たくさんの楽器で演奏するジャズがある一方で、少ない人数で演奏するジャズ、ピアノ一人だけのジャズ・・とらえどころがありません。うきうきしてくるものもあるし、切なくなってしまう演奏もあります。静かなもの、騒々しいものもあります。

ジャズは、アメリカのルイジアナ州ニューオーリンズで誕生したといわれています。20世紀初頭のニューオーリンズは、さまざまな人種の吹き溜まりでした。アメリカが「ルイジアナ」を買う前に、ニューオーリンズはスペインとフランスが支配していました。そこへイギリス人とイタリア人、少し遅れてドイツ人とスラブ人が移住してきました。移住者たちは、母国の音楽を愛し、保存しようとした。ですから、イギリス民謡を歌う人、スパンニッシュダンスを演奏とともに踊る人、フランスのバレ音楽が奏でられ、ドイツ（プロシヤ）式のブラスバンドの行進が行われるというように民族音楽のオン・パレードでした。教会音楽も、プロテスタント、カトリック、バプチスト、メソジストの賛美歌がそここの教会から流れでて、黒人行商人の叫ぶような売り声が飛び交い、黒人のダンスとリズムが混ざりあいました。

このような多様な人種や国の文化が混ざり合って、ジャズ、ニューオーリンズジャズというものが、華やかに登場したのです。

ニューオーリンズジャズの特徴は、コルネット（またはトランペット）、トロンボーン、クラリネットの3管編成が基本です。輝かしい音色のコルネットがリードをとり、重く力強いトロンボーンがベースパートを受け持ち、クラリネットは、2管の間を自由に織って、メロディを作っていく。この3管の背後には、ベースまたは、チューバ、ドラム、バンジョーまたはギター、時にはピアノからなるリズムセクションがつかまいます。初期のニューオーリンズジャズのリズムは、まだヨーロッパのマーチのリズムにたいへん似ていて、2ビートでした。

ジャズはこの後、幾度も幾度もスタイルを変えて発展していくことになります。ヨーロッパのクラシック音楽が、古典派、バロック、浪漫派、印象派と変化してきたように、ジャズのスタイルも時代を反映しながら、鋭敏に変化してきました。

1910年代のディキシーランド、20年代のシカゴ、30年代にアメリカ中で大ヒットしたビッグバンドによるスイングジャズ、40年代に前衛的なビ・バップ、50年代は帝王マイルス・デビスなどがクール、ハード・バップと呼ばれるサウンドを開拓し、60年代にはフリー・ジャズ、70年代のフュージョン、80年代の伝統派ジャズと、休むことなく、新しいサウンドが追い求められ、変革されてきました。一つの場所や評価に安住しない。それは、ジャズのみならず、すべての芸術が持っている崇高なチャレンジ精神なのでしょう。



100年の歴史のなかでジャズは間断なく発展し、ニューオーリンズからシカゴ、全米、ヨーロッパ、日本、南アフリカへと音楽が広まり、言葉も人種も違う国のジャズに共鳴する人たちのなかから、優れた演奏者もたくさんでてきました。今年のオーシャン・ブルー・ジャズ・フェスティバルに出演する日野皓正さんや秋吉敏子さんたちも、ジャズに魅せられて永らく演奏してこられた方々です。

昨年のオーシャン・ブルー・ジャズ・フェスティバルでは、日野皓正さん、ルーソロフ、ジミー・ヒースさんなど5人のトランペット、トロンボーン奏者が地元大島中学校の吹奏楽団の生徒たちへレクチャーをしました。演奏曲目は、スイングの名曲「シング・シング・シング」と「A列車で行こう」。「A列車で行こう」には、ミュージシャンも加わって一緒に演奏し、エンディングではトランペットのハイノート応酬で、生徒たちはビックリ。そして大感激。

**100年前にニューオーリンズで生まれた種が、ひたちなか市にまで飛んできたことになります。**

ジャズの進歩と発展に大きく貢献してきたものは、人種間の交流です。そして人種間の交流こそ、音楽的、国民的、国際的、社会的なさまざまな分野で、ジャズを性格づけている**ともに楽しもう**というスピリットを象徴しています。素晴らしい音楽は、人の心を揺り動かし、手と手を繋げます。

**せっかく地元で素晴らしいジャズの祭典があるので、晩夏のひととき、ご家族でジャズを聴きにいかれてはいかがでしょうか。**



●チケット・ボランティアスタッフ応募のお問合せ先  
ひたちなか市文化会館  
TEL 029-275-1122 FAX 029-275-1126